

東京都写真美術館年報

2012 - 2013

TOKYO
METROPOLITAN
MUSEUM
OF
PHOTOGRAPHY

東京都写真美術館年報／2012-13
Annual Report: Tokyo Metropolitan Museum of Photography
2012-13

はじめに

平成24年度は、「発信、写美から世界へ」を目標として国際化に向けた事業の企画・運営に懸命に取り組んだ結果、40万人を超える多くのお客様にご来館いただきました。

展覧会事業では、サンフランシスコ・香港・韓国など外国での展覧会を開催するとともに、楽しみ、学び、体験し、つながりを深めていくことを目指し、当館所蔵のコレクションを活用したシリーズ展、調査・研究に基づいた多彩な企画展、当館重点収集作家の個展や新進作家の作品展、国内外の幅広いネットワークを活かした国際展など、関係団体、企業、出品作家の協力のもと、23の展覧会を開催しました。展覧会では、作品に親しみ美術館を身近に感じていただけるよう、出品作家や当館学芸員によるギャラリートーク、対談等の充実を図ったほか、図書館司書による関係資料紹介などを積極的に進めました。

5回目を迎えた「恵比寿映像祭」では「パブリック≒ダイアリー」をメインテーマとして、国内外の作家、ゲストによる多彩な映像作品の展示、上映、ライブ、トークなどさまざまなプログラムを展開したほか、恵比寿ガーデンプレイスや各商業店舗との協力、地域における文化施設との連携を積極的に進め、関連イベントを実施しました。さらに映画ファンの期待にも応える美術館として、「アート&ヒューマン」をテーマとして選んだ映画作品を年間15本上映し、幅広い年齢層のお客様にご鑑賞いただきました。

教育・普及では、ボランティアのみなさまのご協力のもと、学校と連携した多様なスクールプログラムや、初心者から上級者まで、当館ならではの多彩なワークショップを開催し、写真や映像を通じて豊かな学習の場を提供してまいりました。

写真美術館の基盤をなす作品収集におきましては、東京都をはじめ当館支援会員である企業、団体、作家のみなさまからのご支援により厳選した、質の高い作品、歴史的にも貴重な作品、1,536点を新たなコレクションとして加えることができました。

これらのコレクションはもとより、内外のすぐれた作品をより身近なものとして、多くの方にご覧いただき、誰にも喜ばれ親しまれる美術館となるよう、今後もさらなる努力を積み重ねてまいります。

本書がみなさまにとって当館を知るための参考になれば幸いです。

東京都写真美術館

目次

平成24年度事業

東京都写真美術館の基本的性格	5
東京都写真美術館の事業内容	6
東京都写真美術館の戦略的運営	7
展覧会事業	13
教育普及事業	27
作品資料収集／作品収集実積	34
平成24年度収蔵作品の紹介	37
調査研究・普及活動（個人）	43
広報事業	48
保存科学研究室	53
図書室	55
実験劇場	57
友の会	62
支援会員	63
ミュージアムショップ／カフェ	67
数字からみた写真美術館	68
条例	73
施行規則	76
開館の経緯／組織図	78
平面図／施設面積／建物概要／設備概要	79
利用案内	81



東京都写真美術館の基本的性格

東京都写真美術館は、我が国初の写真の総合的専門美術館です。中心となる「写真美術館」に、映像分野全般について、文化と技術の両面から総合的にとらえ体験できる「映像工夫館」*を付設した、多くの都民にとって親しみやすく、また多様な関心に応えることが可能な新しい文化施設です。そしてこの美術館は、次のような基本的性格を持っています。

- a 写真の総合的専門美術館として、収集、展示、保存、修復、調査、研究、普及などを含めた総合的な活動を行います。
- b 写真表現の可能性に挑戦する創造的精神を支援し、将来性のある作家を発掘し、新しい創造活動の展開の場とします。
- c 写真芸術・文化を普及するために、人々が気軽にすぐれた写真作品を鑑賞し、学ぶとともに、美術館の諸機能を積極的に享受できるような、開かれた施設とします。
- d 写真に関するあらゆる情報を集約するとともに写真を含む映像全般に関する調査・研究を行う施設とします。
- e 日本における写真文化のセンター的役割を果たすとともに、国際的な交流の拠点となることを目指します。
- f ワークショップなど参加型機能をもつとともに、人々の創作活動をサポートする施設として、国内外の写真作家や人々が広く交流しうる場を備えた施設とします。
- g 歴史的な映像文化に関する展示と最先端の映像表現を体験的に享受できる「映像工夫館」を併設し、映像メディアの発達の歴史を学ぶとともに多様な表現の可能性を探ります。

(平成3年8月東京都策定「東京都写真美術館基本計画」より)

*なお「映像工夫館」では現在「地下1階展示室」として「映像展」をはじめ各種展覧会を開催している。



東京都写真美術館の事業内容

1. 展覧会事業

3階、2階、地下1階に設置する約500㎡の3つの展示室で、年間を通じて展覧会を開催。収蔵している約2万9千点以上の写真・映像作品を中心に紹介する収蔵展のほか、支援会員の支援を基に実施する自主企画展、他団体との誘致展など多種多様な企画を実施する。

2. 教育普及事業

講演会やカフェ・トーク、ワークショップ（写真ワークショップ、映像ワークショップ、子どもワークショップ）、スクールプログラム（小学校、中学校、高等学校などとの連携授業）、ガイドツアー、美術館ボランティア事業などを実施する。

3. 作品資料収集

収集の基本方針および写真作品収集の新指針に基づき、写真および映像作品・資料、写真機材などを収集、保存、管理。収蔵作品の閲覧サービスを実施する。

4. 調査研究

国内外の写真史、映像史、美術史や写真論、映像論、美術論の成果をふまえ、また社会学やメディア論など他分野をクロスオーバーしながら、常に新しい写真・映像作品の動向に目を向け、国際的な視点をふまえた調査研究を行い、その成果を展覧会や普及事業、紀要やシンポジウムなどに反映させる。

5. 広報事業

展覧会、写真・映像文化の普及をはじめとした事業に関する広報宣伝（記者懇談会、写真美術館ニュースの発行、チラシ等配布、ホームページ管理・運営、広報イベントの企画・運営、ポスター、外壁ディスプレイシート、懸垂幕の掲出など）。

6. 情報システム

収蔵作品および図書資料の収集、登録、管理、運用ができるようデータベースを整備する。情報検索システムを利用し、来館者向け検索サービスを実施する。

7. 保存科学研究室

展示および貸出前後における収蔵作品の状態調査、収蔵条件および展示条件の決定、収蔵作品の修復および展示室の環境調査、写真資料の保存・修復に関する研究を行う。

8. 図書室

図書資料の収集、整理、保存、閲覧サービス、レファレンスサービス、調査研究の支援を行う。

9. 実験劇場

1階ホールで、将来を担う有望な若手新進監督の映画作品や良質な作品の中から、写真美術館にふさわしい映画を先駆けて上映を行う。

10. 支援会員

写真・映像に係わる文化や芸術等の振興をはかるとともに、東京都写真美術館の活動を支援することを目的として、法人支援会員制度を設立し、より多彩に充実した事業を展開させる。



東京都写真美術館の戦略的運営

東京都写真美術館のミッション

東京都写真美術館は、平成7年に恵比寿ガーデンプレイス内に総合開館しました。わが国初めての写真と映像に関する総合美術館として開設され、写真・映像の文化の発展を目的に誕生しました。開館10周年を経た今日、当館運営に当たってのミッションは以下のとおり考えます。

平成18年3月2日 東京都写真美術館館長
福原 義春

「わが国唯一の写真・映像の総合美術館として、 センター的役割を担う存在感のある美術館を目指します。」

<過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館>

貴重な作品や資料を的確に収集・保存し、将来の写真・映像文化発展の礎とします。また、次世代の文化の担い手である子どもや若者達に積極的に文化発信を行います。

<質の高い写真・映像文化と出会う美術館>

社会との関連性や、国際動向を十分踏まえ、収蔵コレクションの有効活用や、調査研究に立脚しながら、質が高く満足度の高い展覧会を実施します。

<写真・映像文化の普及と新たな創造を支援する美術館>

美術館での体験を通じ、写真・映像の技法や表現に関する理解を深めるとともに、新たな文化創造を支援する刺激のある場とします。

<写真・映像文化の拠点として貢献する美術館>

国内外の美術館、関係機関との連携を深めながら、写真・映像文化の拠点として、多様な事業を推進する上で貢献できるよう努めます。

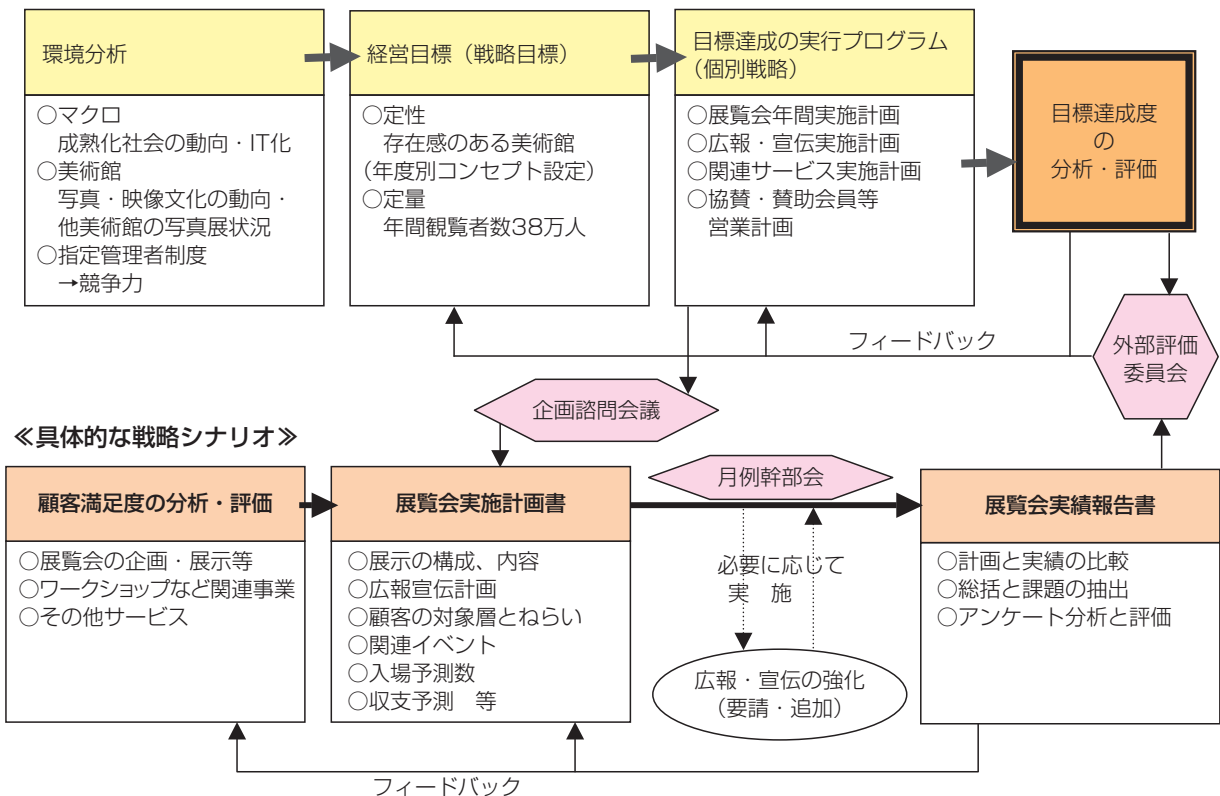
<開かれた美術館>

来館者の視点に立ち、人々に広く活用されるとともに、企業、団体、ボランティア等の参画を募り、開かれた美術館とします。

当ミッションは平成18年3月2日に策定した。

写真美術館における戦略的運営システム

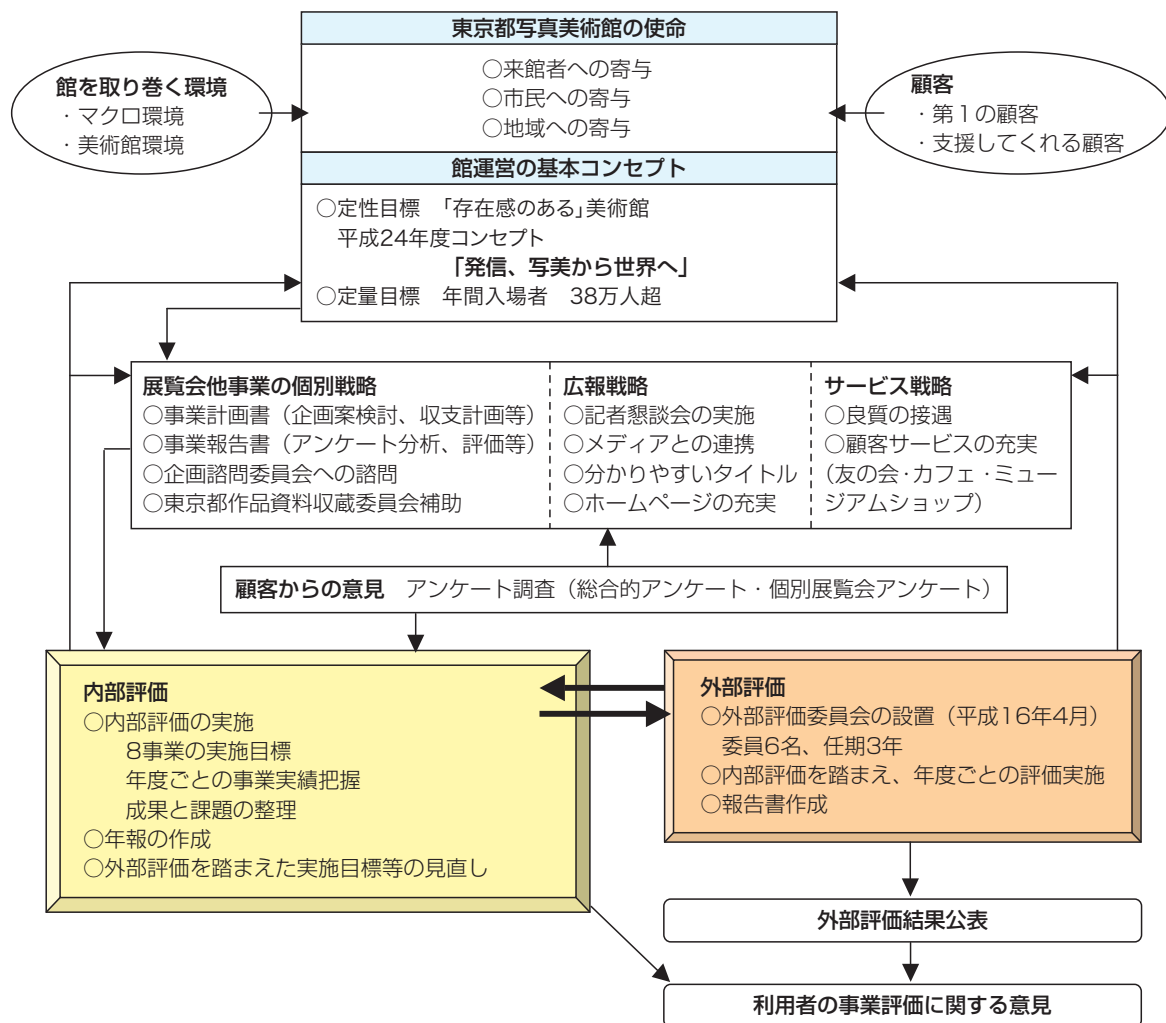
写真美術館では、民間企業で取組んでいる戦略的経営の考え方や視点を参考にして運営システムを構築しており、環境分析から戦略目標、個別戦略、事業計画さらには目標管理まで一連の仕組みを定めている。



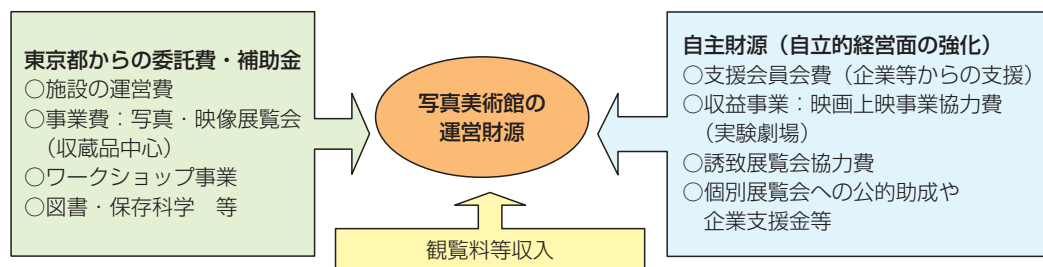
《経営目標の設定》

定性目標		「存在感のある」美術館運営	
とりわけ来館者が「また来たい」と思う魅力的な展示と雰囲気を目指す。			
○写真愛好家にとどまらず、幅広いジャンル(美術・音楽・映画等)の愛好家が多く来館し、館の存在を一般的に周知できること。			
○日本を代表する写真美術館として、写真・映像のセンター的役割を果たすとともに、新しい創造活動の展開の場とすること。			
★年度別コンセプト			
平成13年度	「静かな賑わい」	平成19年度	「対話する美術館」
平成14年度	「写真(映像)とは何かを伝える」	平成20年度	「顔が見える美術館」
平成15年度	「感動を与える」	平成21年度	「交流を広げ、つながりを強める美術館」
平成16年度	「明るく迎える美術館」	平成22年度	「お客様のニーズにチャレンジ！」
平成17年度	「信頼される美術館」	平成23年度	「広報マインドと実践」
平成18年度	「判りやすく説明する美術館」	平成24年度	「発信、写美から世界へ」
定量目標		年間入館者 38万人超	
平成13年度	227,183人 (前年度比 1.04倍)	平成19年度	365,871人 (前年度比 0.83倍)
平成14年度	364,307人 (// 1.6倍)	平成20年度	415,456人 (// 1.14倍)
平成15年度	413,289人 (// 1.1倍)	平成21年度	428,514人 (// 1.03倍)
平成16年度	431,521人 (// 1.04倍)	平成22年度	427,223人 (// 0.99倍)
平成17年度	441,705人 (// 1.02倍)	平成23年度	429,657人 (// 1.01倍)
平成18年度	443,107人 (// 1.01倍)	平成24年度	407,382人 (前年度比 0.95倍)

館運営と事業評価の概念



運営財源



平成24年度 コンセプトと取組み

中長期的な目標である「存在感のある美術館」を達成するための活動として、平成24年度のコンセプトを設定した。

「発信、写美から世界へ」

写真美術館から世界へ向けて発信する年とし、外国人に写真美術館のイメージを持ち帰ってもらえるよう、館全体として国際化に向けた様々な取組みを行った。

◆ 海外での展覧会展開

- 「東京都写真美術館コレクション展 日本の写真 1960年代～1970年代を中心に」展
会 場：韓国・東江写真博物館
期 間：平成24年7月20日（金）～10月1日（月）
- 「畠山直哉 ナチュラル・ストーリーズ」展
会 場：サンフランシスコ近代美術館
期 間：平成24年7月28日（土）～11月4日（日）
なお、同展は平成23年12月16日（金）から平成24年2月26日（日）までオランダのアムステルダムHuis Marseille, Museum for Photographyにおいても開催
- 香港国際写真フェスティバル2012「パラレル・ヴィジョンズ：日本と韓国の現代写真」展（「日本の新進作家 vol.11 この世界とわたしのどこか」展の一部）
会 場：香港藝術中心
期 間：平成24年10月14日（日）～11月4日（日）

◆ 作品貸出

アマースト大学ミード美術館（マサチューセッツ州）、ロサンゼルス・カウンティ美術館、モルガン・ライブラリー&美術館、J・ポール・Getty美術館（サンタモニカ）、ヒューストン美術館、ココラン・ギャラリー（ワシントンDC）に作品を貸し出し

◆ 恵比寿映像祭での連携

- 半数以上が海外作家及びゲスト
総計80名の参加者のうち、54名が海外作家及びゲストで、そのうち、13名が来日し、トークやレクチャー、シンポジウムに参加。
- 海外の国や地域のフォーカスした上映プログラム企画
西アフリカ：ブルキナファソよりドキュメンタリストのトラベローグ、イスラエル現代アーティスト特集上映及

びレクチャー、ベトナム・ドキュメンタリー特集、ニューヨーク発実験映像特集プログラムほか

- 海外組織とのリンクやプログラム企画
・リンクプログラム／ハノイ・ドックラボ（ベトナム）
・シンポジウムパネラー／ホイットニー美術館（ニューヨーク）、OK.ビデオ（ジャカルタ）
- 記者会見やシンポジウムにおける同時通訳

◆ 海外写真作品の検索

約6600点の海外写真作品について、WEBを通じた検索ができるようになった

◆ 図書室

韓国・東江写真美術館への図書資料の貸出や所蔵図書についての海外からの問合せ対応

◆ 海外メディアなどへの情報発信（広報）

- ホームページにおける英語対応の充実
- 英語プレスリリースの充実・発信
- 外国メディアの取材対応
- 海外巡回展や海外活動の告知
- キャンペーン用 英語料金表の作成
- 館内案内刷新（バイリンガル）
- 写真美術館案内の中国語版、韓国語版の発行、中国・韓国のメディア・新聞への情報発信
- 新進作家展では英語版のアンケートを作成し、実施

◆ 教育普及事業

- スクールプログラムでのブリティッシュスクールへの対応
- インドネシア、マレーシア等から来館したキュレーター・研究者向けのレクチャー実施

◆ 海外での講演会

笠原美智子

- ・ "Gender Issues in Japanese Contemporary Photography", Central Academy of Fine Arts, Beijing, Apr. 22, 2012
- ・ "Gender Issues in Japanese Contemporary Photography", Japan Foundation, Beijing, Apr. 23, 2012
- ・ "Contemporary Identity in Contemporary Japanese Photography", a part of "Vision Culture Lecture program", Shalini Ganendra Fine Art Sdn. Bhd, Kuala Lumpur, Malaysia, June 14, 2012
- ・ Curators' Seminar, "Parallel Visions - Japan and Korea Contemporary Photography", Hong Kong International Photo Festival 2012, Hong Kong Arts Center, Oct. 14, 2012

藤村里美

- ・ 講演会「日本の写真史 1960年代～70年代を中心として」東江国際写真祭ワークショップ、ヨンウォル女性ホール、2012年7月20日

金子隆一

- ・ "TOKYO:A City Perspective", Symposium "Reinventing Tokyo/Teaching Tokyo", Amherst College, MA. U.S.A. Dec.7～8, 2012

◆ 人材育成～国際的なインターンシップの受入

潘夢斐（中国、シドニー大学修士課程修了・東京大学大学院学際情報学府）受入

◆ ハーバード大学ファイン・アート・ライブラリーへのカタログ寄贈

ハーバード大学ファイン・アート・ライブラリーに当館で開催した展覧会カタログ40冊を寄贈した

平成24年度 トピックス

- 5月14日 第1回外部評価委員会
外部評価方法の確認及び平成23年度事業実績報告
- 6月12日 第1回記者懇談会
平成23年度事業実績及び平成24年度活動方針説明
- 6月21日 第2回外部評価委員会
平成23年度事業全部門総括と最終評定を討議
- 7月4日 写真映像文化振興支援協議会理事会及び懇親会
平成23年度の事業実績報告及びギャラリーツアー・懇親会の実施
- 9月12日 第1回企画諮問会議
平成23年度事業実績及び平成24年度活動方針説明
総合開館20周年記念展（平成28・29年度）の企画提案
- 9月17日 敬老の日 展覧会無料サービス
65歳以上のお客様対象に展覧会無料サービス
- 10月1日 都民の日 展覧会無料サービス
- 11月16日 作品資料収蔵委員会
平成24年度新規収蔵作品の選定
- 1月2、3日 お正月特別開館
2日は展覧会無料、3日は割引サービスを実施。
この他イベント多数実施
- 1月17日 第2回記者懇談会
平成23年度事業外部評価の報告、平成24/25年度の新企画及び平成24年度新規収蔵作品の紹介

－受賞－

- 「北井一夫 いつか見た風景」展
日本写真協作家賞
- 「川内倫子展 照度 あめつち 影を見る」展
第63回芸術選奨文部科学大臣新人賞
第29回東川賞国内作家賞
- 「日本の新進作家vol.11 この世界とわたしのどこか」展
より菊池智子 「I and I」
第38回木村伊兵衛写真賞

平成24年度 会議実績

企画諮問会議

座長	建畠 哲	京都市立芸術大学学長
副座長	林 道郎	上智大学国際教養学部教授
	倉石 信乃	明治大学大学院理工学研究科准教授
	蔵屋 美香	東京国立近代美術館美術課長
	岸 桂子	毎日新聞学芸部記者
	神谷 幸江	広島市現代美術館学芸担当課長
	浅葉 克己	アート・ディレクター

開催日 平成24年9月12日（水）
議 題 東京都写真美術館の取り組みについて
平成28年度の展覧会企画提案

外部評価委員会

座長	樺山 紘一	印刷博物館館長
副座長	鈴木 杜幾子	明治学院大学教授（文学部芸術学科）
	内田 雅子	（株）佼成出版社新聞編集本部 写真課課長、カメラマン
	逢坂 恵理子	横浜美術館館長
	大西 若人	朝日新聞社東京本社 文化グループ・編集委員
	木下 直之	東京大学教授（大学院人文社会系研究科 ・文化資源学研究専攻）

第1回外部評価委員会

開催日 平成24年5月14日（月）
議 題 外部評価方法の確認及び平成23年度事業実績について報告

第2回外部評価委員会

開催日 平成24年6月21日（木）
議 題 平成23年度事業全部門について総括と最終評定を討議

作品資料収蔵委員会

【収集部会】

委員長	高階 秀爾	大原美術館館長
	岡野 晃子	IZU PHOTO MUSEUM館長
	香川 檀	武蔵大学人文学部教授
	榎木 野衣	多摩美術大学美術学部教授
	竹内 万里子	京都造形芸術大学准教授
	田中 正之	武蔵野美術大学教授

【評価部会】

石井 孝之	タカ・イシイ・ギャラリー代表
和光 清	ワコウワークスオブアート代表取締役
太田 泰人	女子美術大学芸術学部教授（特任）
松永 真太郎	横浜美術館学芸員
佐谷 周吾	シュウゴアーツ代表
杉山 悦子	世田谷美術館企画担当課長
増田 玲	東京国立近代美術館主任研究員
光田 由里	公益財団法人渋谷区美術振興財団学芸員

開催日 平成24年11月16日（金）
議 題 平成24年度新規収蔵作品の選定

記者懇談会

第1回記者懇談会

開催日 平成24年6月12日（火）
議 題 平成23年度の事業実績及び平成24年度の活動方針説明

第2回記者懇談会

開催日 平成25年1月17日（木）
議 題 平成23年度事業外部評価の報告
平成24年度及び平成25年度新企画紹介
平成24年度新規収蔵作品の紹介及び実見